

自由記入欄

回答者	私たちアンケート実施者へのご意見、ご要望、ご批判などございましたら、ご記入ください
A-2	きれいな元の姿に戻してもらいたい。
A-3	2.家族の食環境の変化についての記入は (1)(2)避難前後で家族構成が2地域に分かれたので、年間購入量や金額(経費)を質問されてもピンとこない。(4)食事の変化については、狭いアパート住まいで台所スペースがないので、以前のように料理を作る機会が少なくなった。出来合いの買い物が多くなった。※仮住居を一日も早く終わり、本来の住居を取り戻すことができれば良い。
A-5	・避難しているというだけで、ガソリンカード、ローンをくめない現実 ・賠償を一括に支払ってもらわないと一歩も前に進めない。早く生活再建したい
A-8	私達、大熊町の住民は3月12日体ひとつで故郷を追い出され現在に至っています。少しずつ生活は落ち着いてきていますが、まだまだ先は長いです。
A-10	・檜葉町に転居したのは高齢になり一人暮らしなので息子が心配し呼び寄せたので応じました。整地地目変更など含め約2千万円で家を建てました(平成17年11月14日)土地は息子の義父が提供 ・ところで家の買い取りを認めたので東電に請求したが税の評価額で計算、庭木などを含め654万円との回答が弁護士先生にあったそうです。 ・しかし私の住居の前100mの所にはしおかせ荘日帰り温泉があり、その駐車場に原発事故収束の労働者の仮設住宅があります。多くの労働者が住んでいます。 ・もし私の家を労働者に提供すれば住宅手当が相殺される可能性があります。仮に一人10万円とすれば4人住めば年480万円です。さらに損金で計上されれば税の控除にもなります。賠償の物件が黒字に大化けします。この様なことが何故起こるのでしょうか。賠償は被害者の請求にもとづくものからとずれ、上からの押し付けによるからだと思えます。個人の権利、請求を重視してもらいたいと思っています。原発事故の損害の態様はさまざまです。もっときめ細かな賠償のあり方を検討していただきたいと思えます。
A-14	お疲れ様です。アンケートを記入しての感想ですが、現在、まだまだ先の見えない避難生活者にとって、生活スタイル・リズムの変化は読み取れませんが、私達の心情は「ふるさとを返せ!」が根底にあります。今回のアンケートは第一歩としても、今後このデータを活用しながら、やはり直接会って本当に今一番、何に困っているのか、何を求めているのかを深く研究していただくことができれば幸いです。避難者は疲労困憊しています。国にきちんとこの責任を取ってもらいたいです!
A-15	仮設住宅、借り上げ住宅制度、打ち切りになった場合、どうやって生活していけばよいのか大きな不安がある。自宅はローンが残っているが、戻って生活したくない。
A-16	東京電力は、絶対にゆるされるものではない。
A-17	御手数をおかけ致します。大変な作業だと思いますが、宜しく御願致します。
A-19	アンケート実施に敬意を表します。福島原発は、もとより、全国の原発の廃炉を求めます。子々孫々の時代まで、地球が存続できるように、核廃棄物の処理について、他の国とも力を合わせてほしいです。国と東電と原子力村も責任を問い直すような働きかけも行なってほしいと考えます。
A-20	1、レベル7の無主物を環境省は人間をロボットにして働かせている。 1、文科省ではなく文化省である。環境省は破壊省になっている。 1、私は山草草が好きでした。これからは観ることが出来ない。すべて絶滅してしまう。(宝の山) 1、生命と財産を守ってくれない国、政府はいらなくなった。 1、これから先福島県はどうなる。福島に住居していいのかわからない。ホットスポットあるのに。 1、何んでこんな事になったのか回答が出来ない。言わない。 1、これからの県内の子供達は大丈夫なのか。 1、我々の被ばく線量の管理はでたらめである。20ミリでも生活させようとしている。 1、除染もしない所の農作物を食べさせられている。 1、これから先、中間施設でのダイオキシンはどうする。 1、中間施設が30年以内なので、30年以内に元の双葉町にして貰いたい。 1、我々町民に東電はどれだけ罪深いことをしたか反省の場を設けてほしい。 1、地震大国に原発はいらない。日本人は滅びてしまう。 1、家族を守る家が無くなった。原発事故により全て失ってしまった。 1、原発事故により親父まで殺されて、家族までバラバラにした。 1、ストレスは富士山の如く溜まっている。(頭痛、胃痛) 1、帰還するまで数千人の人が殺されてしまう。 1、新野家も10代目で●装之業も終わりになりそうだ。 1、県内に居住させてモルモット扱いされる。
A-21	3年近い避難生活にもなる今日、あまりにも遅すぎるアンケートではないか。
A-23	今は、原発の問題がどこまでかかるのか、これからどうなるかも、まだわからない状況でどうしていいか困っているが出来れば、この近辺に住めればいいと思っている。
A-27	私達の双葉町の現状を見て来て下さい。何もいわずに、町を、家を追い出され、今では帰宅困難。80才近くになって、先も、明日も今日も今も、何も出来ず、見えない。身心の苦痛な現状を動物のごとく、生きているだけだ。
A-30	私達は100%電気の需要者。関東地方の人達に代わって大変な生活を強いられている。東京の人達は、オリンピック騒ぎに浮かれる事なく、福島県内の被災者に寄り添って欲しい。それが人の道として当り前の事だと思う。
A-32	避難させられた地域(市町村)が3.11の地域に戻ることは有り得ない。 ・この先、事故収束が安全に心配なく済む保証はない。 ・大量の放射能廃棄物の処分場は、原発敷地以外にない。 ・第二原発の廃炉が決定されなければ、地域の消滅範囲は拡大する。 ・政府は文字通りの“復興”は考えていない。飢民政策で原発を押し付け、札束と安全神話の愚民政策で運転(建設)し、事故後はつまるところは全てが棄民対策である。
A-33	檜葉町の自宅に帰る度に、劣化、雨漏り、なずみや他の動物の被害に怒りを覚えていましたが、最近はおきりめの気持ちが大きくなり、それとともに檜葉に帰ろうかどうしようかとの考えもなくなり、今は夫婦で、いわき市に住むことを模索しています。帰郷を希望する方への支援はもちろん、別の道を考え始めた私達のような人達への支援もよろしく願います。
A-34	職についてですが、私は双葉郡広野町でプリント基板工場の工場長をしております。広野町はすでに避難生活は解除されている状況にもかかわらず、人がもどらず、常に人手不足が続いております。そんな状況がもう2年も続いております。双葉郡は非難が解除されても、働く所があっても人材が集まらないのでは…今、私もいわき市から広野まで高速道路通勤をしておりますが、今は無料で通っていますが、有料になると通勤も辛い状況です。食についてですが、私の実家は農家でした。米や野菜を作っていました。米や野菜をもらい、買って食べた事はありませんでした。春になると山でたけの子を取り、山菜を取り、あぜ道では、わらびやふきのとうを取り旬のものをおいしく食べていました。そんな楽しみをすべて失ったんです!!

自由記入欄

回答者	私たちがアンケート実施者へのご意見、ご要望、ご批判などございましたら、ご記入ください
A-38	夫婦2人共、避難したため失業してしまいました。50代での転職はむずかしい。年金受給まではかなりあるし、厚生年金も途切れてしまったので、受給額も減ってしまう。夫婦2人で精神的賠償額が月20万円では、以前の2人分の収入から比べるとかなり少なく、私たちが長年築き上げてきたものをすべて失った今、これから先不安しかない。自宅に対する賠償も充分ではない。アパートや貸家など賃貸に住んでいた世帯は現在、県の支援や東電の賠償で、以前のように賃料がかからないから助かると言っているのを聞くと、持ち家の私達は自宅に居れば元々賃料はかからないし、財物の賠償は当然のことのはずであるから、それは別として、以前賃貸に住んでいた世帯が支援や賠償を受けている賃料は私達持家の者にとっては不公平に思える。私達が自宅を再取得するために、その差額6~10万/月×12ヶ月×支援(賠償)期間分は、同じように支援や賠償してほしい。期間が延びるほど不公平の差額が大きくなると感じる。人数当りの支援賠償では、私達のような50代で夫婦2人の世帯で2人共失業してしまっただけで、生活レベルが逆転してしまい、とても辛い。余裕のある生活をしてきたのに、すべて失ってしまった。東電にはすべて返してもらいたい。就業者補償の継続を要望しています。子供が2~3人以上いる世帯でアパート等に住んでいた人達は働いていた時の給料より精神的賠償の方が高額になったり、アパート代もかからなくなったから助かると言っているのを聞くと悲しくて涙が止まりません。どうして私達は、こんな目にあわされるのでしょうか。私達が要望したい項目が少ないと思います。各々ケースが違いますので、ご考慮お願い致します。
A-40	知人、友人が近くにいないので淋しい。毎日寒い。故郷の実家があわれである。ネズミ、イノシシ、さるが主人のよう、悲しくなる。いるはずのところ人に人がいない集落、皆さんはわかりますか。今は何とか生活してるが、今後の事、住居、健康面、経済面考えと。
A-42	アンケートの質問は、被災者の全体像と目に見える表面的な部分でしかないように感じました。それぞれの人生が違うように個々の抱える問題や苦悩はこれまでのいきさつ、この3年間の出来事によって様々だと思います。そしてまた、解決策も多種多様だと感じます。私達夫婦は震災以前より、職場がいわき市にあった為、楡葉町からいわき市へ通勤していました。震災直後に横浜市へいったん避難しましたが、職場は震災直後に稼働した為、すぐにアパートを自力で探し職場に復帰しました。六畳二間に大人並みの体を持つ子供4人の生活、そこからの通勤と勤務。苦痛とストレスの毎日でした。お弁当を作るのにも狭い台所で倍以上の時間がかかり、疲れて帰っても食事をするのと寝るのが同じ部屋で、寝たい時にはすぐには寝られず、疲れは増す一方。野菜を作って暮らしていた生活からも一変し食費も倍に増加し何もかもに負担が増すばかりでした。実父も震災の年の12月31日に亡くしアパートでの納棺と葬儀に告別式。狭いアパートででは精神的にも肉体的にも限界に達し、このままで職を失いかねないとの懸念から、少しでも広いアパートを求めた末、2度の引っ越しに及ぶなど、日常ではありえない数々の出来事が私達をより一層苦しめました。そんな中、自分達が心を奮い立たせて生活をして、心無い人たちから賠償金をたくさんもらって良い暮らしをしているのだから、働くことなんかできないのではないかなど非難中傷も数知れず。私は正職員で勤務していましたが、フルタイムで働く事が困難となり平成26年よりパート勤務に移行しました。私達は楡葉町のどかな空気と、楡葉町の人柄の豊かさが好きで家をたて一生の住処とする為移り住みました。今後、帰郷を果たしたとしても、個人で線量計を携帯し線量を管理するという事、隣町の放射性廃棄物の減容化施設が自宅から200mの所に建設される事、どれをとっても町は昔のように完全には元には戻らないという事です。放射線という問題と不安、全国から集まってくる作業員との問題、これから未知の廃炉作業に対する不安はこの先まだまだ私達に付きまってくるのです。楡葉町に帰りたい気持ちは大きいですが、私たちが好きで楡葉町にいた日々とは違います。あの清々しさはどこにも見当たりません。いわき市に住むことも考えましたが、地価の高騰、避難者といわき市住民との軋轢 諸問題を多く抱えながら生きていけるか、またそれによってつくづく苦痛で不安の毎日です。私達は季節を感じながらの安心の中で野菜を作って食べ、山に育つ山菜を取り食べ、梅の木から梅を収穫して梅をつけて食べ、漬物をつけたり、そんな生活がしたいだけです。都会の生活では想像がつかないと思う生活です。お金でどうこう出来る生活ではないのです。昨年、諸事情により横浜家裁で調停を行っていました。調停委員の方のお話で、福島の人と関東の人では震災に関しての温度差があまりにもありません。福島はまだまだ渦中に行っているが、関東ではもう過去の事で終わっているように感じているのと事でした。東京電力の社員も重大事故にもかかわらず、渦中にいるように思えません。過去になっているように思えません。福島第一原子力発電所で作られた電気は関東で使われています。どうか今も渦中で苦しむ私達が納得の出来る明日を掴む為に、希望ある未来を生きていく為に、またこの核という脅威が大きな不幸をもたらすという事、いつどこにも同じような事故が起きる事だとういう事を世論が湧きあがるほど伝えて頂きたくお願い申し上げます。
A-44	原発事故を早く收拾し、早く帰郷を進めて下さい。
A-46	正直言って、このアンケートが「届いた時「またか」と思った。他の被害者と同様と思うが「根掘り葉掘り」興味本位で聞かれるようでいやなのです。弁護団からの要請があり、我々のためでもあると思うので回答します。双葉郡を主とした避難者は農家基盤の家庭が多いので、この種の統計には回答し難いと思う。田畑で食料を自給したり、互いに融通し合うので食料費はかかりません。私の家では、代々、味噌の加工、製造、販売をして顧客がほとんど農家基盤なので、このやり取り(くれたりもらったり)で買うのはわずかでした。今は家族が4か所に離散し、何もかも買わねばなりません。早く家族が一緒にまとまって生活したいですが、見通しは暗いです。
A-50	私達避難者は、震災前と同じ生活がしたいだけです。自然がたくさんあって、自分の家でのんびり子供と遊び、小さい近くの小学校のグラウンドでスポ少の野球チームが野球をしている。小さい町でしたが、お店も歩いていけるし、列車の駅も近くにあり、仙台や上野でも行くことができました。おいしいラーメン屋やケーキ屋、肉屋のトンカツなどおいしいお店がたくさんあって、他の町の人にも自慢でした。今ではそのお店にも行けないし、どこでやっているかもわかりません。住んでいた家に住めず、知らない土地での生活も3年になります。東京電力の人たちだけが悪いとは思いますが、自分たちも同じように住んでいる所を急に住めなくされて、どこかちがう土地で住んでみてほしいです。お金で震災前の生活が買えるのであれば、東京電力に買ってほしいです。3年~5年でもとの家にもどれと言われても、住まない・住めない家はどんどんダメになっていくばかりです。庭に植えた木も花も、一時帰帰で見るとすっかり枯れて雑草が一面に広がっていました。以前の生活を返してほしいです。私たちが何か悪いことをしたのでしょうか？この怒りを誰に向けてあげれば良いのでしょうか？じつとがまんして3年が過ぎました。まだまだがまんしなければならないのでしょうか？私達避難者の思いをぜひ伝えて下さい。よろしく願います。・前に住んでいた家をここに持って来てほしい！と思いませんか？いろいろな思いの人がたくさんいる！ということを伝えて下さい。(小6女子)・全体的に帰郷を前提としたアンケートのように感じました。子育て中の世帯は、移住へと気持ちが傾き始めています。(40代女性)住環境が1番のストレスです。ひな人形をかざるとか、こいのぼりをあげるとか、季節の行事も以前のようにできず、そういうことを“今”子どもたちにしてやりたいのに(以前はできていたのにできなくなった)できないことが悲しいです。アパートの窓から見える隣の戸建の家の庭で遊んでいる子の姿を、わが子がうらやましうに見ていると、涙がでます。庭で花の手入れなどしている様子を見るのも、むなしくなります。ストレス:①持ち家があるのに住めない→②借上げの住みかえは認められない→③がまんできず自費で家賃を払い転居(住宅ローンも返済している)→④貯金がどんどん減る→⑤東電に請求→⑥支払いがおそい→⑦不安→①に戻る
B-3	行政の力が充分でないために、高齢者などへのケアが不足していると思われるなりません。年寄りを帰郷させておいて、若い人達は自分達だけで生活をするという、完全な核家族化が進んでしまいました。元々、過疎地であったところが、さらに過疎化されたのです。行政は、個別ケースには対応する人手がなくて困っています。何故、高齢者だけで住むことが放置されているのでしょうか。帰郷した人達がお互い声をかけを行ない、無事を確認し合ってはいますが、人間らしい生活が本当にできているのか疑問です。歩けない人、外に出かける力のない人が実際に孤立しています。買い物にも行けず帰郷しても、高齢者はうばすて山状態です。自分の親を放っておく若い人の気がしれません。表向きは復興と明るい方向へ向かっていますが、被災地であるところにまだ変わりはないと思います。
B-4	文字が小さく、年寄り(老眼鏡使用者には)の私たちに読みかたがたです。(ゴメンナサイ)
B-6	帰村後、お店の方で不便を感じているが、週に1度買い物に出かけることも村民としては楽しみのひとつとなっているようです。帰村して山菜など食品検査を受けながら食べているのでこの頃は何も心配していません。
B-9	調査にはいろいろな機会に協力してきたが、結果データだけで判断するのはどうか？被災者の状況は複雑で、アンケート調査項目にないところで苦しんでいることが多いように思う。活字や数値化されるとそのまま信用することが多いので、本調査結果をもって判定的判断はしないでほしい。この手の調査に協力する毎に当時を思い出して、気が沈む。もうやりたくない!!
B-13	山の恵み(山菜、キノコ)が採取できません。もうあきらめるしかないのでしょうか。
B-16	川内村の場合、週に4日自宅に住んでいれば帰郷になりますので、私の場合は、会社が原発事故後2011年11月から営業が再生しましたので、除染に力を入れて、村民が一人でも多く帰郷出来るように力を入れてがんばりました。でも、現実と我れ我れの努力が一致しない状態です。「放射能の恐さと3年の環境の変化で都会の便利さになれ、現地とは離れるばかりであります。何とか中山間地域にも暖かい気持ちでみまわして下さい。川内の人口3260人、帰郷している人502人、4日以上帰郷している人約1200人役半分です。
B-17	早期に故郷へ戻り元の生活をしたい。

自由記入欄

者回答	私たちアンケート実施者へのご意見、ご要望、ご批判などございましたら、ご記入ください
B-18	原発事故からまもなく3年になろうとしていますが、福島は今だに復興はほど遠い状況であり、私たち川内村民は帰村しても不自由な生活のなかで我慢しながら生きています。原発の汚染水漏れの問題も、毎日のようにニュースに見られ、地震がある度に不安にかられながら生活しています。こちた被災者の苦しみを、東京五輪の開催で浮かっている政府の役人に是非、アンケートを通して知って欲しいと願っています。
B-20	帰郷しているが、今までの生活が変化し、買物、通院先がかわってしまい、経費の増となっている。
A-46	ご苦勞様、真剣に考え回答したつもりですが、なんと回答したら良いか迷っている部分、まとまっていない部分もあり、まとめて容易でないかと思えます。避難民から棄民になりつつあり、先が見えない(原発の)のが不安の最大要因ですし、情報の信頼へも不安でなりません。賠償問題は私たちにとって重要大切な問題である事はその通りですが、それ以上に原発を推めてきた電力会社、国の責任と明確にさせる事が必要だと考えます。
A-47	私は平成26年1月18日から2月8日まで胃癌の手術入院の為め提出できませんでした。誠にすみません。平成26年2月9日(日曜日)
B-21	私の居住区は20km以内でございますが線量が低いいため又畑の線量の検査も昨年作った野菜類の検査結果は全部NOだったので又畑に3年もその仮にしていたニンニクなどは検査の結果異常なかったのです
B-24	色々とお心配を頂き有りがとう御座います。私達も少しでも早く、この現実を現実として受け止めて、前に進む考えでいます。今は少しでも自分自身に気合を入れて頑張るつもりです。
B-25	避難生活を送る中で色々なアンケートに答えできました。しかし、私達の生活が改善される事も癒される事も無く何のためのアンケートなのかと思えます。これまで、皆様の熱き思いの援助をいただいて来た事は大変感謝しておりますが、このアンケートが今後の避難生活をしている多くの人々に対して、何らかの影響がある事を祈ります。
C-1	戻れるものなら戻りたいが、現実的にはこのまま仮設
C-3	お金が足りない、政策はよくわからない
C-4	財産のこと心配
C-6	アンケートはよくきかれるけれど、3年たつと、気持ちもおちついてきて放射能も人のつくったものだが、人のせいせず、前向きに考えていきたい。
C-7	家戻りたい。お金。野菜作れなかったら、仕方ない。みなと一緒に。除染行われず。草。子供は来られない。年3日くらい。原発。光熱費、一番大変。一人10万。5人50万。
C-10	とくになし
C-12	アンケート調査が役立つことを希望しているが行政の施策にどの程度反映されるか疑問。被害者の声をよく聞かなければ、また同じまちがいをくりかえることになる。もっとよく耳をかたむけよ！
C-14	一日も早い塗せんと安心して住める環境作りインフラの整備。うまく書くことが出来ません。若い者も若者も考えていることはみな同じだと思えます。安心して安全な住み良い村、町作りを宜しくお願いします。